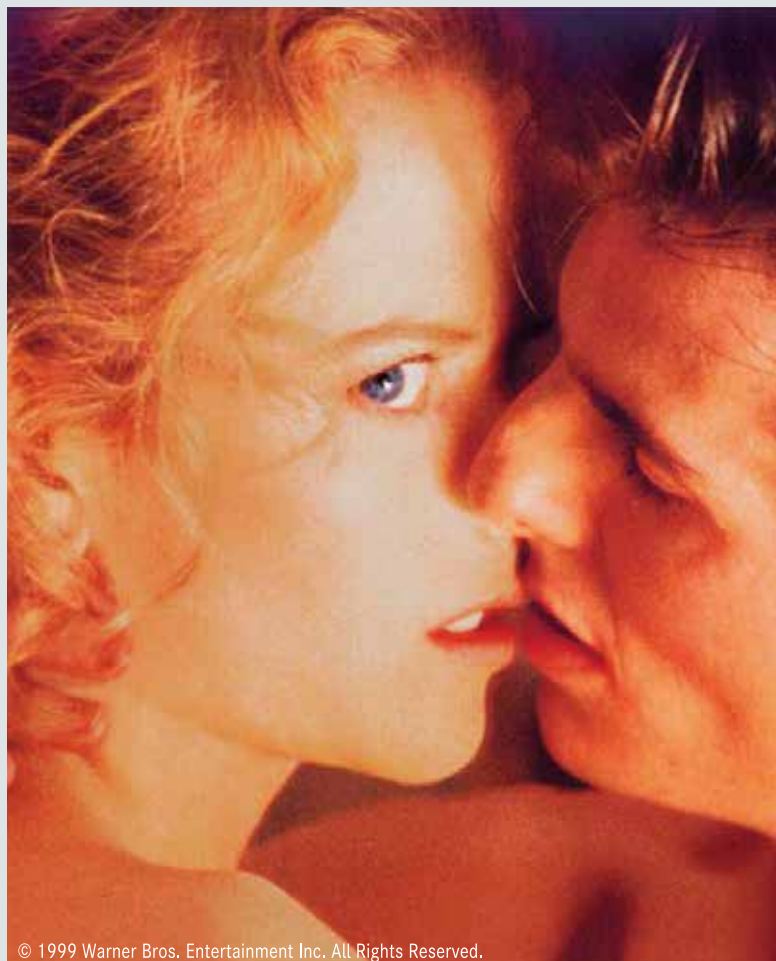


鎌倉市川喜多映画記念館

2025年 2026年

12-1月

上映スケジュール



© 1999 Warner Bros. Entertainment Inc. All Rights Reserved.

サスペンス・ミステリー映画の 奇しい世界

アイズ ワイド シャット

博士の異常な愛情

三十九夜

バルカン超特急

断崖

女の中にいる他人

レイクサイド マーダーケース

Fシネマ・プロジェクト×FILM 座コラボレーション企画

35 mmフィルム映写ワークショップ &
フィルム上映会 in 鎌倉

かまくら世界映画週間 《インド篇》

私たちが光と想うすべて

燃えあがる女性記者たち

ビッグ・シティ



© PETIT CHAOS - CHALK & CHEESE FILMS - BALDR FILM - LES FILMS FAUVES - ARTE FRANCE CINÉMA - 2024

サスペンス・ミステリー映画の^{あや}しい世界

観客の心を惹きつけるサスペンス・ミステリー映画には、先人たちの編み出した巧みな演出上の工夫や効果を高めるための叡智が込められています。

英国からハリウッドに招かれたアルフレッド・ヒッチコックは、1940年に渡米第一作『レベッカ』を発表します。この頃からジャンル名としての「サスペンス」が定着し、ヴァラエティ誌の映画欄には「ミステリー」や「フーダニット」とともに、ジャンルを指し示す用語として登場するようになりました。50年代に傑作をいくつも作り上げ、“マスター・オブ・サスペンス”と称されたヒッチコックは、人々の平穏な日常の中に潜む「犯罪」や「疑惑」を描いて人気を博します。60年代以降、登場人物の心理状態に重点を置いた作品は「サイコスリラー」と呼ばれ、夢や回想、曖昧な記憶を扱った映像表現に様々な工夫がなされるようになりました。

宙吊りにされた不安な状態がもたらすスリルを味わうサスペンス映画と、謎解きの過程を楽しむミステリー映画、重なり合うことの多いこの2つのジャンルは、より複合化した現代映画において、様々な料理に溶け込むスパイスのように効果を発揮しています。本展では両ジャンルの古典から近作までを取り上げ、その魅力に迫ります。スリルと謎に満ちた展開で私たちを楽しませ、魅了してきたサスペンス・ミステリー映画の〈^{あや}しい世界〉をご堪能ください。

◆〈^{あや}しい世界〉とは・・・「あやしい」には〈怪・妖・異・奇〉の4字があり、いずれも不可解で謎めいたもの、神秘的・魔術的、奇妙奇天烈な世界をあらわしています。^{マジック}奇術から発展した映画史上の画期的演出術の数々に敬意を表し、本展では「^{あや}しい」と表記します。



アイズ ワイド シャット

12.18(木)、20(土) 10:30
17(水)、19(金)、21(日) 14:00

1999年/アメリカ=イギリス/カラー/159分/35mm 監督:スタンリー・キューブリック 原作:トム・クルーズ、ニコール・キッドマン、シドニー・ポラック、トッド・フィールド

キューブリックの遺作となったセンセーショナルでミステリアスな“怪”作。タイトルは“Eyes Wide Open”（目を大きく開けて）をもじった言葉遊び。19世紀末の文豪シュニッツラーの小説「夢奇譚」をもとに、ある夫婦の欲望や嫉妬の感情をめぐる葛藤を官能的に描いている。



博士の異常な愛情

または私は如何に心配するのを止めて水曜愛するようになったか
12.21(日) 10:30
12.16(火)、18(木)、20(土) 14:00

1964年/イギリス=アメリカ/白黒/95分/Blu-ray 監督:スタンリー・キューブリック 原作:ピーター・ジョージ 出演:ピーター・セラーズ、ジョージ・C・スコット

キューバ危機の2年後、核の脅威におびえる米ソ冷戦の最中に撮影された痛烈な風刺劇。シリアスな原作をキューブリックは奇人変人揃いの“おかしな”世界として描き、ピーター・セラーズは大統領・大佐・ストレンジラブ博士の1人3役に扮した。



三十九夜

1.12(月・祝)、16(金) 10:30
1.14(水)、17(土) 14:00

1935年/イギリス/白黒/83分/DVD 監督:アルフレッド・ヒッチコック 原作:ジョン・バカン 出演:ロバート・ドーナット、マデリーン・キャロル、ルーシー・マンハイム

殺人犯に間違えられた男が逃亡しながら真相に近づいてゆく“巻き込まれ型”サスペンスの手法をヒッチコックが確立した、渡米前の初期代表作。道中、手錠で繋がれる主演ふたりのスリリングかつユーモラスな展開もヒッチコックならではの演出術である。

学芸員からの おススメコメント

前作『暗殺者の家』(1934)に続き、英米で大ヒットを記録したヒッチコックのイギリス時代の代表作。主人公は謎の女性との出会いをきっかけに事件に巻き込まれ、警察とスパイ組織「三十九夜」から追われる身となります。逃走しつつ真相を追う展開は、後の大ヒット作『北北西に進路を取れ』(1959)を彷彿とさせます。列車、荒野、農家、移動する先々でピンチに陥る主人公がいかにそれを回避していくのか、ぜひスクリーンでお確かめください。



バルカン超特急

1.15(木)、18(日) 10:30
1.12(月・祝) 16(金) 14:00

1938年/イギリス/白黒/94分/DVD 監督:アルフレッド・ヒッチコック 原作:エセル・リナ・ホワイト 出演:マーガレット・ロックウッド、マイケル・レッドグレーヴ

列車内で貴婦人が姿を消した。ヒロインが必死に捜索するものの乗客は皆その存在を否定する。様々な小道具から謎解きの糸口を示すアイデアと個性豊かな乗客たちの人物描写が、ヒッチコックのスリリングな密室劇にさらなる深みを与えている。



断崖

1.14(水)、17(土) 10:30
1.15(木)、18(日) 14:00

1941年/アメリカ/白黒/99分/DVD 監督:アルフレッド・ヒッチコック 原作:フランシス・アイルズ 出演:ジョン・フォンテイン、ケイリー・グラント、ナイジェル・ブルース

夫に殺されるかもしれないという疑念に取り憑かれた妻をジョン・フォンテインが好演。ヒッチコックは夫が妻に持つミルクの存在を際立たせようと豆電球を仕込んでその不気味さを強調。卓越した演出術として語り継がれることになった。



女の中にいる他人

1.20(火) 10:30
1.21(水)、23(金)、25(日) 14:00

1966年/日本/白黒/102分/35mm 監督:成瀬巳喜男 原作:エドワード・アタイヤ 出演:小林桂樹、新珠三千代、三橋達也、草笛光子、若林映子、加東大介

江戸川乱歩が日本に紹介した海外の犯罪心理小説をもとに翻案。鎌倉を舞台に、殺人を犯した夫の良心の呵責と罪を告白された妻の苦悩を描く。成瀬にとって異色の題材だが、夫婦間の複雑な心の機微を捉える点では監督の手腕が存分に発揮されている。



レイクサイド マーダーケース

1.25(日) 10:30
1.20(火)、22(木)、24(土) 14:00

2004年/日本/カラー/118分/35mm 監督:青山真治 原作:東野圭吾 出演:役所広司、薬師丸ひろ子、柄本明、鶴見辰吾、杉田かおる、豊川悦司

東野圭吾のミステリー小説「レイクサイド」を映画化。3組の親子と塾講師が中学受験の勉強会のために集まった湖畔の別荘で、殺人事件が起こる。スキャンダルを恐れて事件の隠蔽を図る親たちの姿と、意外な真相を緊張感溢れるタッチで描く。

チケット販売開始日

1 ~ 2 : 11月8日(土)

映画鑑賞料金

一般 1,300 円

小・中学生 : 650 円

(展示観覧料を含む)

3 ~ 7 : 12月13日(土)

特別上映

一般 1,900 円

小・中学生 : 950 円

35 mm フィルム映写ワークショップ & フィルム上映会 in 鎌倉

12月14日(日) 13:30

『アイズ ワイド シャット』
＋アフタートーク

場内に設置されたシネメカニカ社(イタリア)製の映写機を使用して、**スタンリー・キューブリック監督の遺作『アイズ ワイド シャット』を35 mm フィルムで上映します。**上映後のアフタートークでは、本作の劇場公開時に映写経験のある岩本知明さん(FILM 座代表)に、フィルム映写の技術的なお話からキューブリック映画への思い入れまでたっぷりお話しいただきます。

※映写機が場内にあるため、上映中、映写機の音が聞こえます。
あらかじめご了承ください。

★フィルム映写体験ワークショップ

『アイズ ワイド シャット』をご覧いただく前に、映画フィルムとはどんなものなのか、どのように映されるのか、テストフィルムをもとに実際の作業を通してフィルム映写の理解を深め、鑑賞をより楽しんでいただくためのワークショップです。

対象：本イベントのチケットをお持ちの方(自由参加)

場所：情報資料室

開催時間：10:30～13:00

*上記時間帯の間にいつお越しいただいてもかまいません。

★映写室見学会

(アフタートーク終了後/当日先着順/定員：5名×2回)

普段は入ることのできない映写室で、映写機の仕組みやフィルム上映の流れを説明します。

※参加ご希望の方は、上映当日に受付窓口でお申込みください。

チケット販売開始日

11月8日(土)

料金

一般 1,300 円

小・中学生：650 円

(展示観覧料を含む)



FILM 座とは…

デジタルシネマの普及に伴い急速に減少する 35 mm フィルムでの上映機会を実現し、フィルムの美しさ、フィルム上映における鑑賞体験の素晴らしさを改めて伝えることを目指す団体です。熟練の映写技師が、映画の作り手から信頼を得てきた技術と経験を生かし、フィルム上映の魅力を最大限に引き出します。

12月13日(土)

映写技師を対象に、場内に映写機を設置し調整を行う

「移動映写ワークショップ」を開催します。

お申込み・詳細はこちらをご覧ください。↓

F シネマップ：http://fcinemap.com/

共催：一般社団法人コミュニティシネマセンター

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(芸術家等人材育成)) / 独立行政法人日本芸術文化振興会

協力：FILM 座



かまくら世界映画週間《インド篇》

川喜多長政・かしこ夫妻の理念である<映画が世界を結ぶ>をテーマに、世界各国の映画を通して国際交流の場となることを目指して開催している「かまくら世界映画週間」、今回は「インド」を取り上げます。ヨーロッパに匹敵する面積の国土に、世界最大 12 億の人口を有するインドは、古くからの伝統と急成長を遂げる社会が交差したエネルギー豊かな国です。多言語・多民族国家のこの国では、映画においても独自の文化が築かれてきました。歌や踊りを贅沢に織り交ぜた娯楽映画のイメージが強いインド映画ですが、その一方で現代の社会問題を含んだ作品が世界で高い評価を受けています。本特集では、インドの社会や文化が浮かび上がってくる 3 作品を上映します。

チケット販売開始日

12月13日(土)

映画鑑賞料金

一般 1,300 円

小・中学生：650 円

(展示観覧料を含む)

特別上映

一般 1,900 円

小・中学生：950 円

(展示観覧料を含む)



燃えあがる女性記者たち

1.27(火)、30(金) 10:30 1.28(水) 14:00
2.1(日) 13:30 [特別上映]

2021 年/インド/カラー/93 分/DCP
監督：リントウ・トーマス&スシュミト・ゴシュ
出演：カバル・ラハリヤの記者たち(ミラ、スニータ、シャムカリ)

インド社会に根付くカースト制度で被差別カーストにあたる「ダリト」の女性たちを中心に組織された新聞社「カバル・ラハリヤ」の活動を追ったドキュメンタリー。自身も様々な差別と闘いながら、社会の弱い立場の声を拾い上げ、権力者に立ち向かう姿が、ジャーナリズムと民主主義のあるべき姿を問う。



私たちが光と想うすべて

1.29(木)、2.1(日) 10:30
1.27(火)、31(土) 14:00

2024 年/フランス=インド=オランダ=ルクセンブルク/カラー/118 分/DCP
監督：バヤル・カパーリヤー 出演：カニ・クスルティ、ディヴィヤ・プラバ、チャヤ・カダム

舞台は人口約 1300 万人の大都市・ムンバイ。自立し自由に生きているようで、実際は社会、家族、伝統の重圧に苦しんでいる女性たちの葛藤と友情を描いた現代インド映画注目作品の一つ。2024 年のカンヌ国際映画祭でインド映画史上初のグランプリを受賞した。



ビッグ・シティ

1.28(水)、31(土) 10:30
1.29(木)、30(金) 14:00

1963 年/インド/白黒/136 分/DCP
監督・脚本・音楽：サタジット・レイ
出演：マドビ・ムカルジ、オニル・チャタルジ、ヘレン・チャタルジ

1950 年代のコルカタ。家族の反対を振り切って専業主婦から訪問販売の職を得た妻と、そんな妻に離職を迫る夫。川喜多かしこ公主にわたり親交を結んだサタジット・レイが、経済的苦悩と女性の自立を描いたベルリン国際映画祭銀熊賞受賞作。76 年に岩波ホールで『大都会』のタイトルで公開された。

特別上映

2.1(日) 13:30 ~

『燃えあがる女性記者たち』
＋トークイベント

「映画から見える
インド社会」

松岡 環さん(アジア映画研究者)

現代のインドで、数々の差別を打ち破って記者として活躍する女性たちを追った本作からは、社会・宗教・政治・メディア、そして人々の暮らしまで、インドの“いま”が浮かび上がってきます。トークイベントでは、長年にわたりインド映画を中心にアジア映画の紹介に尽力してきた松岡環さんに、変わっていくインド・変わらないインドについてお話しいただきます。

チケット販売場所 鎌倉市川喜多映画記念館窓口 0467-23-2500

*友の会会員の方は、電話予約が可能です。

Filming Schedule

12月	ワークショップ&フィルム上映会	14 (日)		13:30	アイズワイドショット (159 分) +アフタートーク ^{*1}	
	特別展関連上映 サスペンス・ミステリー映画の 奇しい世界 チケット発売日 11.8 (土)	16 (火)		14:00	博士の異常な愛情 (95 分)	
		17 (水)		14:00	アイズワイドショット (159 分)	
		18 (木)	10:30	アイズワイドショット (159 分)	14:00	博士の異常な愛情 (95 分)
		19 (金)		14:00	アイズワイドショット (159 分)	
		20 (土)	10:30	アイズワイドショット (159 分)	14:00	博士の異常な愛情 (95 分) +映画談話室
		21 (日)	10:30	博士の異常な愛情 (95 分)	14:00	アイズワイドショット (159 分)
1月	特別展関連上映 サスペンス・ミステリー映画の 奇しい世界 チケット発売日 12.13 (土)	12 (月・祝)	10:30	三十九夜 (83 分)	14:00	バルカン超特急 (94 分)
		13 (火)	休館日			
		14 (水)	10:30	断崖 (99 分)	14:00	三十九夜 (83 分)
		15 (木)	10:30	バルカン超特急 (94 分)	14:00	断崖 (99 分)
		16 (金)	10:30	三十九夜 (83 分)	14:00	バルカン超特急 (94 分)
		17 (土)	10:30	断崖 (99 分)	14:00	三十九夜 (83 分)
		18 (日)	10:30	バルカン超特急 (94 分)	14:00	断崖 (99 分) +上映解説
		20 (火)	10:30	女の中にいる他人 (102 分)	14:00	レイクサイド マーダーケース (118 分)
		21 (水)			14:00	女の中にいる他人 (102 分)
		22 (木)			14:00	レイクサイド マーダーケース (118 分)
		23 (金)			14:00	女の中にいる他人 (102 分)
		24 (土)			14:00	レイクサイド マーダーケース (118 分)
		25 (日)	10:30	レイクサイド マーダーケース (118 分)	14:00	女の中にいる他人 (102 分)
	かまくら世界映画週間 《インド篇》 チケット発売日 12.13 (土)	27 (火)	10:30	燃えあがる女性記者たち (93 分)	14:00	私たちが光と想うすべて (118 分)
28 (水)		10:30	ビッグ・シティ (136 分)	14:00	燃えあがる女性記者たち (93 分)	
29 (木)		10:30	私たちが光と想うすべて (118 分)	14:00	ビッグ・シティ (136 分)	
30 (金)		10:30	燃えあがる女性記者たち (93 分)	14:00	ビッグ・シティ (136 分)	
31 (土)		10:30	ビッグ・シティ (136 分)	14:00	私たちが光と想うすべて (118 分)	
		1 (日)	10:30	私たちが光と想うすべて (118 分)	13:30	燃えあがる女性記者たち (93 分) +トーク 松岡環さん

*1 14 日の上映は上映中、映写機の音が聞こえます。あらかじめご了承ください。
トークゲストは岩本知明さん (FILM 座代表) です。

ギャラリートーク／上映解説

展示／上映の見どころについて、学芸員が解説します。(要企画展観覧料)

ギャラリートーク：1.24 (土)
*ギャラリートーク後に、旧和辻邸見学ツアー(希望者のみ)を行います。(約10分)
上映解説：1.18 (土)
午後の回上映後(約 40 分)

映画談話室 12.20 (土) 午後の回上映後

スタッフが進行役となり、解説も盛り込みながら映画について皆様と語り合う時間です。

ゆく年くる年の展示解説ツアー

年末年始のご挨拶も兼ね、当館と鎌木清方記念美術館を巡る解説ツアーを実施します。
普段は非公開の旧和辻邸もご案内します。(予約不要)
日時：12.26 (金) / 1.7 (水) / 1.12 (月・祝) 各日 13:00 ～
集合場所：鎌倉市鎌木清方記念美術館
料金：各館の展示観覧料



Kamakura City Kawakita Film Museum
鎌倉市川喜多映画記念館
〒248-000 神奈川県鎌倉市雪ノ下 2-2-12
0467-23-2500

開館時間：9:00 ～ 17:00 (入館は 16:30 まで)
休館：月曜日(1月12日は開館)、12月30日(火) ～ 1月3(土)、1月13日(火)
主催：川喜多・KBSグループ(鎌倉市川喜多映画記念館指定管理者)

※駐車設備がありませんので、公共交通機関をご利用ください。
※席数、入館時間等は状況により変更する場合がございます。
詳しくはお問合せください。

https://kamakura-kawakita.org



特別展
サスペンス・ミステリー映画の奇しい世界
2025 年 11 月 30 日 (日) ～ 2026 年 3 月 29 日 (日)
特別展観覧料 一般：500 円 (350 円)
小・中学生：250 円 (170 円)
*() 内は 20 名以上の団体料金

